

昭和二十年、罹災直後の数通の手紙

江戸川乱歩の空襲体験

〈解題〉

昭和九（一九三四）年夏、江戸川乱歩は池袋に移った。明治二十七（一八九四）年生まれで乱歩は、転職・転居を繰り返していたが、三十九歳のときにここ池袋に居を定めた。以後、七十歳で死去する昭和四十（一九六五）年七月まで、ここで過ごすことになる。乱歩は自分の人生について、詳細な記録を付けていた。それによれば、ここは四十六番目の住居であった。

乱歩の作成したスクラップブック『貼雑年譜』第一巻と第二巻は、昭和十六年に作成したものである。探偵小説の刊行がほとんど不可能になり、時間ができたため、それまで収集してきた乱歩自身に関する情報を整理した。この時点で扱ったのは昭和十四・十五年までである。多少の書込みは追加されたが、基本的にはその時点までの記録となった。

ている。

つまり、乱歩の人生の中で、おそらく最大の引越作業は、二巻までには記録されていないのだった。

四十七番目の住居、福島県保原への転居は、昭和二十年におこなわれている。戦争末期の疎開である。

乱歩はまず、母と妻を疎開させ、のち自分も移転した。体調が悪かったので、終戦後もしばらくは疎開先に残り、十一月に東京に戻っている。このとき、数多くの蔵書も移動させているのだった。乱歩の『貼雑年譜』第三巻には、そのときの記録が残されている。

昭和二十四年から、のちに『探偵小説四十年』となる「探偵小説三十年」の連載を乱歩は続けていた。昭和三十一年一月、『貼雑年譜』の第二巻の終わりにあたる、昭和十五年の記述に到達する。そこで一旦この連載を休止し、『貼雑年譜』第三巻以降を作成する。回想録は『探偵小説三十五年』として三か月後の四月より再開された。この連載が完結して、『探偵小説四十年』として昭和三十六年に刊行されるのである。

今回紹介するのは、昭和二十年四月からの、疎開の準備を進めていた時期の書簡で、『貼雑年譜』第三巻に数通が貼ってある。乱歩は母と妻を先に福島へ疎開させ、自分は

池袋に残っていた。書簡はその二人に向けた報告である。

『探偵小説四十年』には、乱歩が戦時中にとのような活動をしていたのか、詳細な記述がある。昭和十六年から二十年の部分は、探偵小説に関する記述は少なく、この本を探偵小説の歴史として見る際には、違和感を覚える部分でもある。

昭和十六年秋頃から、乱歩は隣組の集会に出席するようになった。防空訓練にも参加し、じきに防空群長に任命される。翌年には池袋丸山町会副会長となった。当時の会長は安達克巳陸軍少将だった。回覧の謄写版なども、会長が自ら書いていたが、乱歩が代わるようになっていく。最初に書いたのは「軍用飛行機献納運動」の寄付を募る回覧で、飛行機のイラストも乱歩が描いたという。

安達少将が南方へ赴任することになると、代わって乱歩が会長を打診される。しかし乱歩はこれを固辞し、衆議院議員の小笠原三九郎に会長就任を依頼した。乱歩は引き続き副会長を務め、各種の回覧文書などを作成するほか、防空指導係長の仕事もした。

昭和二十年四月十三日夜、大空襲があった。このとき池袋はほとんど焼野原となった。しかし乱歩の家は奇跡的に残ったのだ。乱歩はその様子を『探偵小説四十年』の

「空襲罹災記」として記している。

その「空襲罹災記」でも引用されているが、乱歩は昭和三十年に「防空壕」という短篇小説を書いている。そこには空襲の体験が、生々しく描かれている。遠くの空が明るくなり、焼けているのが分る。次第に敵機が近づき、上空で交戦が始まる。焼夷弾が次々と落下し、辺りが火の海になっていく。

小説の主人公はその美しさにみとれてしまうのだったが、乱歩自身は防空指導係長として、消火にかけ回っていた。

乱歩は町会の他の家の消火にあたり、自宅を気にかける余裕はなかった。幸いにして乱歩の家には焼夷弾の直撃はなく、南側の隣組の人々が消火に当たったため、類焼も防ぐことができたのだ。

立教大学も焼けずに残ったので、翌日にはここが配給所として機能した。乱歩は町会役員として、この配給物資を受け取る手続きなどに忙殺される。

町内も大部分が焼け、住む所を失ったひとびとは、残った家に一時同居することになった。乱歩の家は、家族が疎開していたので、そこに多くの人が暮らした。一時は十数人がこの家に住んだという。

このときすでに妻と母は福島県保原に疎開していたので、池袋に残っているのは乱歩だけだった。

乱歩は上空襲があるたびに無事の手紙を送っていた。

四月二十六日の書簡は「罹災直後の手紙」として『探偵小説四十年』でもその一部分が紹介されている。他にも五月二十七日書簡の、就職に関する部分が引用されている。ここにある書簡は、このように『探偵小説四十年』の資料として使われているのである。

『貼雑年譜』第三巻にはこういう状況報告の書簡が数通貼られている。短いハガキなどをのぞくと、四月十五日、四月二十日、四月二十六日、五月十四日、五月二十七日、六月四日、六月七日である。

この時期乱歩は、自宅にある書籍を守ることにも苦慮していた。書簡には、自身と家屋の無事を知らせる文面に加えて、書物を送る算段についても書き記されている。運輸省の知人を頼り、文化財として書物を送ることがようやく可能になったのだった。

『探偵小説四十年』昭和二十年の「私の身の周辺の主な出来事」には、「七日、書籍家具等を貨車一台を借りて疎開地に積み出し、翌八日、私自身も病氣療養のため家族の疎開地に移る」と書かれている。だが、六月七日の書簡にあるよ

うに、このときは十個ほどの荷物を送っただけのようである。『貼雑年譜』には六月七日に荷物十個を送った保険証書と、二十三日に書籍百五十八個を送った証書が連続して貼られている。このふたつを混同した可能性が高い。

『貼雑年譜』にある「送状」と「貨物受取証」の日付は六月二十三日となっている。このとき、書籍を発送したのである。

この作業について『探偵小説四十年』では「仕方がないので米俵を百俵ほど手に入れて、厚く新聞紙包みにした本の束を、幾つかまとめてその中に詰め、両端にサンダワラを当て、縄でしばった」とある。木箱が手に入らないことによる苦肉の策だったが、輸送の際の保護としては完全だった。

この準備を事前に済ませておき、「貨車が借りられたときには、用意万端ととのつていたので、ただ積みこみさえすれば良かった。当時はトラックが不足で、荷馬車はやったものだが、私の荷物も荷馬車で何度にも駅へ運び、側線に入れた貨車に積み込んだ。私はそれに立会って、貨車に錠をおろし、紙を巻いて封印をした」。

続く部分には「そして、貨車と同日に、汽車に乗って、福島市近くの保原町へ、私のからだも疎開したのである。

それが六月の八日だった」と書かれているが、先に書いたように、これはおそらくまちがいのと思われる。

乱歩の自伝的文章をまとめた本『わが夢と真実』には、別の記述がされている。「それまでに書籍の疎開はすませていたので、身一つで行けばよいのである。汽車の切符を手に入れるのみなかなかだったが、八月初め、敵機の機関銃射撃で穴のあいた三等車に立ちつくして、やっと保原町にたどりついた」（疎開、敗戦、探偵小説の復興）『わが夢と真実』昭和三十二年）。これによれば、実際は、書籍を送り出したあともしばらく池袋に残っていたようである。

『貼雑年譜』第三巻には、八月二日の消印のハガキがある。これを見ると、『わが夢と真実』のほうが正しいようである。

「前略 来る八日朝（予定）当地着にて転出して行きま
す、敏男は□きましたか其後音沙汰ないのでどうかと思っ
てゐます、詳しくは面□の上 草々」

つまり、乱歩は八月七日までは池袋にいたということになる。ただ、六月にも保原へ行って、このとき東京にいったん戻っていたのか、あるいは、ずっと東京に留まっていたのかは不明である。

保原に疎開しても、乱歩は栄養失調状態で寝込んでいた。終戦を告げる放送も病床で聞いた。そのまま疎開先で終戦後も三ヶ月ほど過ごすことになる。

体調の回復した乱歩が、池袋に戻ったのは十一月七日だった。

探偵小説復興の時が来た、と乱歩は感じていた。すぐに出版社の人々が乱歩を訪ね、探偵小説の刊行へ向けて動き始めている。大衆向けの読物のうち、時代小説は武士道を描いているため、検閲にかかるおそれがあった。そこで出版が探偵小説に集中したという事情もあった。

探偵小説の本は次々と刊行された。昭和二十一年には雑誌『宝石』ほか五誌、さらに二十二年には九誌が創刊されている。乱歩の旧作も大量に刊行され、昭和二十一年には、二十六冊、二十二年には三十一冊だったと乱歩は書いている（光文社文庫の注によると、これは正確ではなく、二十七冊、三十冊である）。

こうして探偵小説が盛んになっていき、乱歩はその中心人物となっていく。町会とのかかわりは戦時中とくらべて少なくなっていたが、池袋の住人としての乱歩の生活は、その後二十年続く。

人物

小生：江戸川乱歩・平井太郎

隆（りう・隆子）：妻。先に疎開している。

きく：乱歩の母。先に疎開している。

隆太郎：乱歩の一人息子。東大心理学科を繰り上げ卒業。当時は土浦の航空隊の所屬で飛行兵の「心理試験」担当。

敏男：乱歩の弟

通：乱歩の弟

小林さん：福島県保原町の売薬業者。乱歩の母と妻の疎開先。

野口さん：池袋の運送業者。娘が保原の小林家に嫁いでいて、乱歩に疎開先として紹介。

小笠原さん：小笠原三九郎。衆議院議員。戦時中に町会長をつとめ、乱歩は副会長だった。戦後、商工大臣、のち大蔵大臣。公職追放期間は極洋捕鯨の社長なども務めているので、乱歩に紹介したのはこの会社かもしれない。

大下さん：大下宇陀児。探偵小説家。池袋東口に住み、町会長。四月十三日の空襲で家を失う。

落合教幸

（立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター学術調査員）

かりぬいぬるを、そのうちへは残つてゐる□□の無いフトンを上げる
 事になります。組内には多数の焼夷弾が落ちましたが、うち
 へは一発もおちず、たゞ庭に二三本落ちたのみです。
 池袋駅もやられたので、当分電車は出ず、駅の事も開か
 れず、荷物は一層おくれる事となりました。その前から品
 物をやったりしていろ／＼やつてゐるのですが、強制ソカ
 イの人達丈で大変な騒ぎにて迎も出す事が出来なかつた
 のです。その強制ソカイの家屋取壊しでこの十日間余り毎
 日努力し全部完了してゐたのに、それが何の甲斐もない事
 となりました。どんな広い防火帯を造つても、あのやり方
 で攻められては凡て無駄です。例によつて逃げる方／＼へ
 ボカン／＼と火の雨が降つて来るのですから。
 町内罹災者のよるべなきもの百余名祥雲寺に泊まり昨日は
 それらの人の□物とフトンの心配、罹災証明の発行等で終
 日忙殺され、やつと日がくられて眠る事が出来ました。四十
 時間程眠らなかつたわけです。今日は大体かたづく事と思
 ひます。
 そちらの火災保険保証書を左に写します。
 通は空襲当夜を□しましたが、いろ／＼続き全く無事です

隆太郎

大正60、3月40、22日 計110

御向 二月三月二十九日 二月二十九日 日暮

御留 御留 御留 御留

隆太郎

隆太郎

隆太郎

御安心下さい。敏男の方は被害なし。隆太郎へもそちらと

同じ電報打ち手紙出しました。

深井さんは数日前家が空いたのでその方へ引移り、昼間留

守番に来るといつて残りしましたが、上の娘は病氣、中は挺

身隊、末は今度安田池袋支店の事ム員を勤める事になった

ので、気の毒故□□は空家でやって居ります。物は皆蔵

の中に入れて鍵をかけて出るのです。

その内一度そちらへ行かうと思つて居ります。

そらも此間は郡山の空襲あり、今後もチョイく御見舞ひ

ある事でせう。しかし東京よりは無論そちらがよろしい。

(電灯電ワラジオ瓦斯水道凡て不通ナリ)

太郎

母上様

隆子との

二十年四月十五日

深井さんの移った家は被害なかったかと思ふ。

長崎方面は残った。

四月二十日

十五日の封書（同時に隆太郎へ出した分は切手がハガレたため受け付けず返戻されたが、そちらは受取ってくれた事と思ふ）と速達ハガキ見て下さった事と思ふ。十三日夜の空襲により当地区はやられたが、不思議に隣組中我が家だけ残った。門と物置が焼けたのみで全部助かった。奇蹟だといふ人が多い。焼野原の中にポツンと一軒家が残っているわけ。人間も全く無事。町内及附近罹災者は祥雲寺に収容（祥雲寺通りから北部は残った）その世話が昨日までつづいた。収容所の外残存家庭に収容せる罹災者約一千名。十人十五人と置いてある家もある。我が家も青山さん母娘が一昨日までゐたし、通の友人の中野さん三人連れが今もゐる。今日からは町内の佐藤徳和さん一家が入る事になってゐる。それらの千人の食糧の世話が十四日から今日までつづいた。区役所警察の仮本部が立教大学に出来てゐるので、そこへお百度を踏んで食糧獲得に骨折った。朝は六時から夜までその配給の事で忙殺された。それが今日で終り、あとは正常の配給所が開設されるわけです。

十五日夜の空襲では敏男の方が被害中心地となつたので一

20/4/20

十五日の封書（同時に隆太郎へ出した分は切手がハガレたため受け付けず返戻されたが、そちらは受取ってくれた事と思ふ）と速達ハガキ見て下さった事と思ふ。十三日夜の空襲により当地区はやられたが、不思議に隣組中我が家だけ残った。門と物置が焼けたのみで全部助かった。奇蹟だといふ人が多い。焼野原の中にポツンと一軒家が残っているわけ。人間も全く無事。町内及附近罹災者は祥雲寺に収容（祥雲寺通りから北部は残った）その世話が昨日までつづいた。収容所の外残存家庭に収容せる罹災者約一千名。十人十五人と置いてある家もある。我が家も青山さん母娘が一昨日までゐたし、通の友人の中野さん三人連れが今もゐる。今日からは町内の佐藤徳和さん一家が入る事になってゐる。それらの千人の食糧の世話が十四日から今日までつづいた。区役所警察の仮本部が立教大学に出来てゐるので、そこへお百度を踏んで食糧獲得に骨折った。朝は六時から夜までその配給の事で忙殺された。それが今日で終り、あとは正常の配給所が開設されるわけです。

中へ入ると、一々鍵を掛けて外出してゐる。傘や靴も
 靴もあつたのにならぬ。盗難の心配はない。そちら二人の転出
 証明は□□の手続きがすまぬ内に□□が焼けたのでおくれ
 てゐたが、本日同封する。そちらへ転入の手続を取つて下
 さい。
 余は後便に譲る。
 そちらからは当月四日出の二枚つゞきのハガキが来てゐる
 丈けであとは一つも郵便が着いてゐない。こちらからは十
 五日□□□の封書の外に■罹災以前三度ばかりハガキを出
 してある。着いたかどうか。
 小林さんによろしく御傳へ下さい。
 こちらは今の所食ひものには不自由してゐない。いろく
 貰ふので。
 四月二十日
 太郎
 母上様
 りうとの

2/8/26.

母上及隆子より十五日出手紙二通と「十五」十九日出の
 速達ハガキを同時に二十三日落手しました。こちらの十五
 日出の手紙、二十日出の速達手紙御受取りの事と存候。其
 後隆太郎見舞に來り二晩泊つて歸りました。敏男も見舞に
 來てくれました。敏男は平塚から徴用が來たので何かの間
 違ひならんが一度帰らねばならず罹災者でない為汽車に乗
 れず、一部分歩いて歸るとて出発しました。やはり東京に
 踏み留まるつもり由です。
 小生は一昨日まで應急食糧配給の事で忙殺され、昨日米の
 平常配給が始めて行はれたのでやつと少し暇が出来まし
 た。昨日は住友信託に焼残りの報告に行き、今日は始めて
 大下さんを見舞ひました。同君一家は丸焼け。焼け跡にト
 タンで小屋を造つて生活してゐます。さういふトタン小屋
 が到る所に出来、隣組も組織されて來ました。
 目下家に同居してゐるのは、中野さん夫婦と老婆、奥さん
 の妹さんの四人、佐藤徳和さん夫婦にお嬢さん二人、小生
 と通と合計十人です。佐藤さんの大きい息子さん二人は旧
 宅跡のトタン小屋で寝てゐます。当町会には四十世帯程の
 残存者の家に千人近くの罹災者が入つてゐます。十八十五

四月二十六日

母上及隆子より十五日出手紙二通と「十五」十九日出の
 速達ハガキを同時に二十三日落手しました。こちらの十五
 日出の手紙、二十日出の速達手紙御受取りの事と存候。其
 後隆太郎見舞に來り二晩泊つて歸りました。敏男も見舞に
 來てくれました。敏男は平塚から徴用が來たので何かの間
 違ひならんが一度帰らねばならず罹災者でない為汽車に乗
 れず、一部分歩いて歸るとて出発しました。やはり東京に
 踏み留まるつもり由です。
 小生は一昨日まで應急食糧配給の事で忙殺され、昨日米の
 平常配給が始めて行はれたのでやつと少し暇が出来まし
 た。昨日は住友信託に焼残りの報告に行き、今日は始めて
 大下さんを見舞ひました。同君一家は丸焼け。焼け跡にト
 タンで小屋を造つて生活してゐます。さういふトタン小屋
 が到る所に出来、隣組も組織されて來ました。
 目下家に同居してゐるのは、中野さん夫婦と老婆、奥さん
 の妹さんの四人、佐藤徳和さん夫婦にお嬢さん二人、小生
 と通と合計十人です。佐藤さんの大きい息子さん二人は旧
 宅跡のトタン小屋で寝てゐます。当町会には四十世帯程の
 残存者の家に千人近くの罹災者が入つてゐます。十八十五

灯火なき夜は七時頃寝て朝は五時に起きてゐます。

下へ又か困るやうな事でもなりました。升新（マスシン）もやけその北川はズツと無くなつてゐます。家庭市場から東へ四五軒残つてゐる丈けです。池袋では当町会の北部とその少し北の所とが■主な残つた所です。■当町会の残存家庭が全池袋の三分の一に当ります。当町会が一番多く残つた町会です。



福島へ往復の切符が頼んでありますから、入手したら一度行きます。荷物も貨車一台入手の運動をして見ようと思ひます。しかし急な事に行くかどうか分りません。年金受領地変更届承知しました。株券の配当をそちらで受取る為左の書式のハガキを後に印刷用紙を送り来り正式の届出を要求するかも知れませんが、その時は同じやうに記して送返して下さい。

人と置いてゐる家も少くありません。

灯火なき夜は七時頃寝て朝は五時に起きてゐます。

電灯はつかず、蠟燭も尽きて来たので魚油で燈芯の灯火を用ゐてゐます。

大下さんが困つてゐるので魚油半分やりました。

野口さんのもとの家は無論焼けました。升新（マスシン）もやけその北川はズツと無くなつてゐます。家庭市場から東へ四五軒残つてゐる丈けです。池袋では当町会の北部とその少し北の所とが■主な残つた所です。■当町会の残存家庭が全池袋の三分の一に当ります。当町会が一番多く残つた町会です。

福島へ往復の切符が頼んでありますから、入手したら一度行きます。荷物も貨車一台入手の運動をして見ようと思ひます。しかし急な事に行くかどうか分りません。年金受領地変更届承知しました。株券の配当をそちらで受取る為左の書式のハガキを後に印刷用紙を送り来り正式の届出を要求するかも知れませんが、その時は同じやうに記して送返して下さい。

電灯はつかず、蠟燭も尽きて来たので魚油で燈芯の灯火を用ゐてゐます。

母之様
 啓
 申上
 二
 一

此
 三
 二
 一
 二
 一
 二
 一

降りの汽車は小林さんへの手紙に記した通り大変な混雑で
 混雑は、小山までしか切符を賣らないのだから小山では皆降
 りるかと思つたら殆んど降りる人なく皆上野まで乗つてあ
 ました、不思議な現象です、あとで聞いたら、構はず乗越
 して出発駅から上野までの乗車賃の三倍を支払ふのださう
 です。途中で見つかれば引き降されますが、あの混雑では
 検札どころではないので、上野まで来てしまへば今更ら引
 返せとも云へないので、三倍の料金でそのまゝになつてし
 まふのだらうといふ事でした、

こちらには相変わらず毎日回数少敷機がやつて来ますが今のと
 ころ別状ありません
 荷物は段々むつかしくなつてゐますが運輸省事官の口振
 りでは何とかなり相です、この人は相当の地位の人ですし
 固い男ですから安請合などしないので、大体見込みがある
 のではないかと思ひます、本を文化財として特別に扱つて
 貰ふわけです、二十日すぎに確かな事は分ります、
 眞綿の靴下は通の会社の千葉に家のある人の所へ送つて
 持つて来て貰ふといふ方法があり相ですから、一つ替古し
 て作つて見て下さい、

借家の件、大屋さんの方の話分り次第御一報下さい、
 次の二枚は小林さんに渡して下さい、余は後便、

五月二十七日

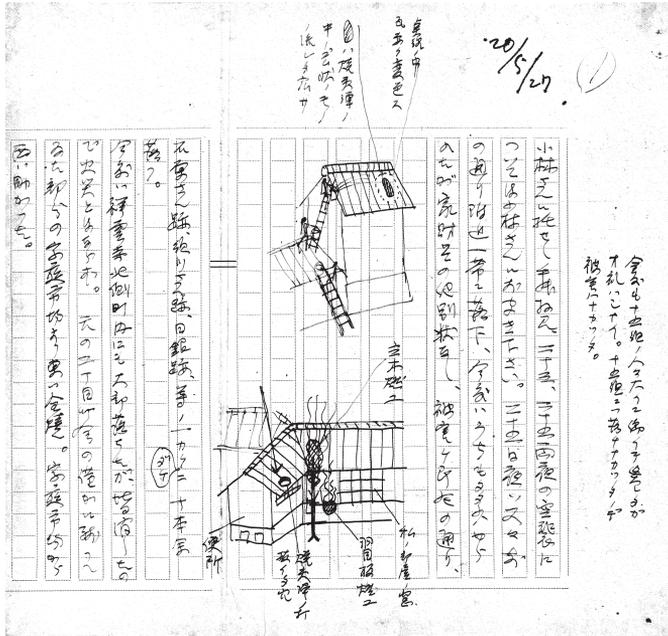
今度も十五組ノ人々大イニ働イテ呉レタガオ礼ハシナイ。
十五組ニハ落チナカツタノデ被害ハナカツタ。

小林さんに托せし手紙拝見、二十三、二十五両夜の空襲に
ついては小林さんにお聞き下さい。二十五日夜は又々前の
通り附近一帯に落下、今度はうちも多少やられたが家財そ
の他別状なし、被害ケ所左の通り、

石原さん跡、須川さん跡、日銀跡、等ノ一カクダケ二十本
余落タ。

今度は祥雲寺北側町内にも大部落ちたが、皆消したので火
災とはならず。元の二丁目町会の僅かに残つてゐた部分の
家庭市場より東は全焼。家庭市場から西は助かった。

書籍の内、百科全書等カサバルモノ三四程本日夏目古本や
ノ開業につき売却セリ。千円ホド。



やうなものです。■■仕事の性質が余り好ましくないし、丸の内は危いので考慮中、その他にもいろいろ考へあれど、大体はやはり保原へ行く考へです。併しそちらもいろいろ思はしからぬ点あり、荷物の出る出ないが確定するまでは決心します。東京に住居を確保しておくのもよし、まだ少し迷つてゐます。

靴下編めたら私のみならず通、敏男等の分も送つて下さい。送り方は左記へ小包で送れば通が受取れるやうに話してあります。通の会社の人で一週一度位こゝへ帰るので

□□、封筒用紙、ミシン針、ミシン油（この二つは佐藤さんがくれた）下駄二足、保険証書、小林さんに托します。下駄の入つてゐる荷物五個あり全部あげたが、新しい高下駄はないので、古下駄一つと日和一つと持つて行つて貰ふ尚そちらでハマを入れる事出来る様子故割れてゐるのもう一つ入れる。

ハガキ二百枚切符二百枚

五月二十七日

太郎

追伸 (前ノ手紙に用紙並紙の包の中に入れた)
 日立の配当はこちらへ送つて来たが隆の印がないのでそちらへ送る外なし。そちらの近くの銀行に少し預け□□当座にしてこれを振込んでおいて下さい。
 須川さんの娘さんが時々焼跡の品物を探しに来て弁当などうちでたべて行くが、その話によると、須川さんは百姓家の八畳に三人住んでゐて、物は手に入らず、その家の主人が山師で何でも儲けたがる人物にて非常に困つて泣き事を並べてゐる。疎開というものはどこもこの調子らしい。

六月四日

隆太郎の切符使用不能と判明行けぬ事になりました、金櫃、フライパン、シヤクシ、箸、ワン、洋食皿、染彩、サジ、隆メガネ、糸ルイ、針、扇子、ハシ箱、ワサビオロシ、アルミシヤクシ、茶ワン類、ミシン附属品箱、母隆モンペルイ、その他いろいろ入用と思はれるもの取そろへ大荷物がつつてありますが、いづれ切符の都合により持参します。高下駄二足も発見し荷作りしてあります、尚当座入用のものあらばご一報下さい。速達のこと。
 小林さんによろしく、物置改造の家一見したら様子お知らせ

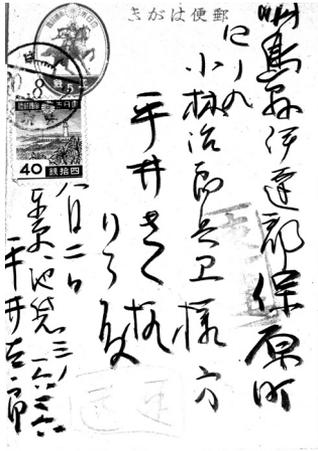
隆太郎の切符使用不能と判明行けぬ事になりました、金櫃、フライパン、シヤクシ、箸、ワン、洋食皿、染彩、サジ、隆メガネ、糸ルイ、針、扇子、ハシ箱、ワサビオロシ、アルミシヤクシ、茶ワン類、ミシン附属品箱、母隆モンペルイ、その他いろいろ入用と思はれるもの取そろへ大荷物がつつてありますが、いづれ切符の都合により持参します。高下駄二足も発見し荷作りしてあります、尚当座入用のものあらばご一報下さい。速達のこと。
 小林さんによろしく、物置改造の家一見したら様子お知らせ

平井用英

電報せし通り切符使用不能と判明し行けなくなったが三月
 前より申込みありし荷物漸く積出せる事になったので急い
 で行く事もなくなった訳です。明七日衣ルイ台所道具の最
 も入用らしきもの十個池袋駅に持込みますから（宛名は小
 林さん、保原駅留め）三、五日中にはそちらに着く事に存
 じます。（書籍の方は文化財として之又近日一車可能の様
 子、おかれてゐた理由はいろいろありいづれ報じます）野
 口さんより預かりの荷物も右十個の内、或は別口にて同時
 に発送出来ると思ひます、いづれ内容目録詳しく手紙しま
 すが、積込むといふ事丈け不取敢御知報する次第です。

せ下さい。速達にて。
 六月四日午前 太郎
 母上様
 りうとの

六月六日



お暇 予定
 早朝の就寝 夜明けの朝
 出で行く予定です
 此方から来たメールの返信
 言わないでほしい
 このままのままでいい
 手の上

八月二日